

3話

旭町富士のなくなる理由①

～謎の少女たち～

でもやっぱり旭町富士がなくなることはホントのようだった。今私には旭町小学校に通う、小学5年生の弟がいる。

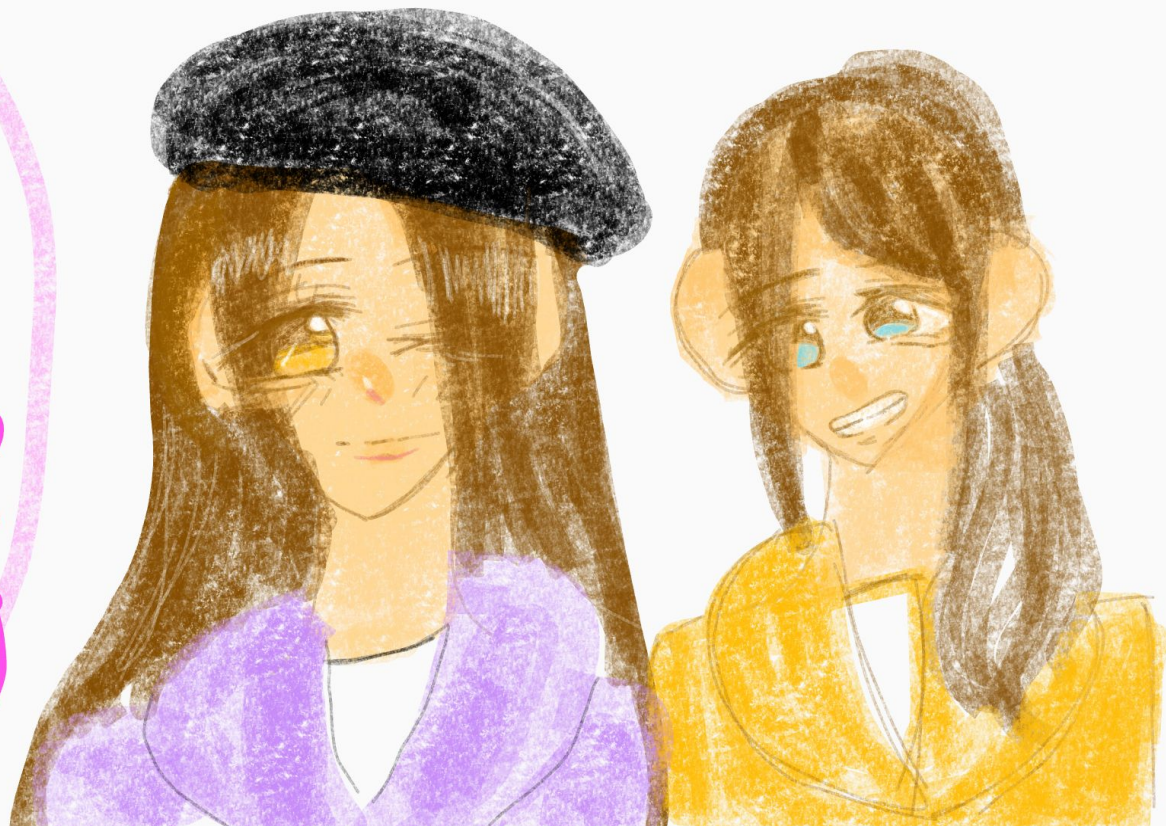
弟の名前は「桜田富士」。現在、小学5年生のくせにこの事を教えてくれなかった。どうしてだろう。どうして無くなってしまおうのだろう。最後に遊ぶことはできないのかな。最後に写真を撮ることはできないのかな。



するとそこに弟よりも少し背が高くて、小学6年生くらいの女の子たちが私に姿を表した。

え！この子たちは誰！

ママン
ママン



「こんにちは、桜田朝日さん。私達はね旭町富士のことをなんでも知っているんだ！」
なんで私のことを知っているの？
この子達は何を言っているんだろう。とも思ったけどとりあえずその子に名前を聞いた。

「何というお名前なの？」
「その名も！レンとマナでレンマナです！」
「ほほう……」

「レンちゃんとマナちゃんは旭町富士がなんで壊されるのか知っている？あと本当に壊されちゃうの？なんとかすることはできないの？」

「待って待って！質問詰めすぎる！」

「あ！ごめんね～あはははは....」

「じゃあまず旭町富士が壊される理由ね」

「うん....」

ここで私は気がついた。もう壊される理由から説明するってことは壊されること自体が確定しているって.....

「壊される理由は旭町富士の老化が原因だよ」

「ろうか？あのろうか？」「違う！老いるに化ける」

「そっか... じゃあ、他に旭町富士が壊される理由はなに？」

「えっ！ソレだけ！？それだけでなんでなの！？？みんなの大切なものだよ！！！」

「だから理由は老化で旭町富士にヒビが入って危険だからだよ。」

「でも、でも(泣)」

「みんなが怪我をしないためって決めたことなんだよ。だから私達は、旭町小学校の卒業生たちに思い出を聞いて最後にみんながやりたいことを実現してあげたいの」

「どうやって聞いたの？」

「アンケートだよ！朝日ちゃんもみんなの夢を叶えたいでしょ！もし叶えたかったら手伝ってほしいことがあるの！」

「うん....私もみんなの夢を叶えたい！手伝わせて！で何を手伝うの？」「それはね.....」